

2023年度 経済学部 一般選抜 問題訂正

教科・科目	ページ	設問	誤	→	正
世界史	14	Ⅲ	問17 上から5行目 「(a)で水爆実験被爆事件」	→	問17 上から5行目 「(a)で <u>の</u> 水爆実験 <u>で</u> 被爆事件」
世界史	14	Ⅲ	問17 上から9行目 「ゴルバチョフ <u>大</u> 統領」	→	問17 上から9行目 「ゴルバチョフ共産党書記長」

I 近代の日本とドイツの関係について述べた次の文章を読んで、問1～問5に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄 A〕の所定の欄に記入しなさい。

日本とドイツとの外交関係は、1860年9月、A ケーニヒスベルク（現在のカーリーニングラード）出身の B フリードリヒ・ツー・オイレンブルク伯爵を長とする使節団が、江戸に来航し、1861年1月、日本とプロイセン王国のあいだで条約が調印されたことに始まる。この時期の C ドイツは統一国家を形成していなかった。そのため、オイレンブルクは、プロイセンをはじめ、30を超える国と日本との条約締結を使命として来日した。しかし、幕府はそのような多数の国家との条約締結を拒み、結局、プロイセン1国を相手とした条約が締結されたのである。条約締結後には、幕府の蕃書調所では D ドイツ語の学習も始まった。

19世紀末から20世紀初頭にかけて、ドイツの外交政策が転換すると、日本とドイツは外交的には対立関係に入った。第一次世界大戦がはじまると、E 日本はドイツに対して宣戦布告した。

問1 下線部 A に関連して、カーリーニングラード（ケーニヒスベルク）の歴史について述べた次の文章を読んで、以下の（1）～（3）に答えなさい。

現在のカーリーニングラードを州都とするカーリーニングラード州は、ロシアの飛び地となっている。こうした状況は、国家とは国境線で囲まれた領域的なまとまりをもつものだという現在の常識からみれば例外的なものだが、かつてのヨーロッパでは、王侯が分散した支配領域を持つのはごく普通のことであった。

現在のカーリーニングラード、かつてのケーニヒスベルクは、13世紀にドイツ騎士団によって建設された城塞に起源をもち、のちにプロイセン公国の中心都市となった。プロイセン公位はブランデンブルク選帝侯のホーエンツォレルン家に継承され、18世紀初頭には、α ブランデンブルク選帝侯はプロイセン王の称号を名乗ることを認められていた。ホーエンツォレルン家の当主がブランデンブルクとプロイセンの君主を兼ねたとはいえ、当初、両者は地理的につながっていたわけではない。あいだにはポーランドが存在していた。1772年の第1次ポーランド分割の結果、両者は一体的な領域となった。

β 第一次世界大戦後、ケーニヒスベルクを含む地域はドイツの飛び地となった。ところが、第二次世界大戦後には、γ 戦前のポーランドの東部とともに、ケーニヒスベルク周辺はソ連領となる。そして、ケーニヒスベルクはカーリーニングラードと改称された。その後、ソ連邦の解体を経て、今度はロシアの飛び地となって現在にいたるのである。

（1）下線部 α に関連して、ブランデンブルク選帝侯がプロイセン王の称号を名乗ることを認められた経緯について、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

- (2) 下線部  $\beta$  に関連して、次の文章を読んで、空欄 (ア) に入る地名を、〔解答欄 B〕の所定の欄に記入しなさい。

第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約によって、ドイツから領土を割譲されたポーランドは、海への出口となる回廊を確保した。一方、ドイツはこの回廊によって分断された。この回廊は貿易港 (ア) と接していたが、ドイツ系住民が大半を占める (ア) とその周辺地域は国際連盟の保護下におかれ、自由市となった。ただし、この自由市において、貿易のために必要な施設や鉄道などを使用し、管理する権利はポーランドが有した。1930年代後半に、ドイツは、東欧各地に支配地域を拡大させるなか、ポーランドに対してこの自由市の返還を要求していた。

- (3) 下線部  $\gamma$  に関連して、ポーランドは第二次世界大戦以前の領土の東部をソ連に割譲するかわりに、大戦前のドイツ領の東部を領有することになった。しかし、ドイツ連邦共和国 (西ドイツ) がこの新しい国境線を承認するには、西ドイツの対外政策の転換を待たなければならなかった。この西ドイツの対外政策の転換について、新しい国境線の位置に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

- 問2 下線部 B に関連して、次の資料は、オイレンブルク使節団の公式報告書に付された序文の日本語訳からの抜粋であり、使節団が派遣された当時の国際情勢について叙述したものである (必要に応じて表現を改めた)。この資料を読んで、以下の (1)、(2) に答えなさい。

$\alpha$  ロンドンで世界大博覧会が開かれた1851年とその後の時代は、世界貿易の点で一つの転換を画するものとなった。至る所で自由主義の原理が台頭し、国際的諸関係はますます活発となり、企業精神はあらゆる方面に向って道を開いていった。中国の産物に対する消費の増加、オーストラリア及び  $\beta$  北アメリカの西海岸における植民の急激な発展 (中略)。これらは、当時、太平洋沿岸の諸国の商業上の意義を、ここ2、30年前には考えられなかったほど高めたのである。

〔資料出所〕『オイレンブルク日本遠征記』上巻

- (1) 波線部  $\alpha$  に関連して、この博覧会では、インドからもたらされた「コーイヌール」と呼ばれるダイヤモンドが展示された。この石は、第2次シク戦争後にヴィクトリア女王に譲り渡され、のちにイギリス王室の戴冠宝器となったものである。この戦争への勝利を経てインドの大部分がイギリスの支配下に入ったが、1850年代にはイギリスのインド支配には制度的な変化が生じた。この変化について、それをもたらす契機となった出来事に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。
- (2) 波線部  $\beta$  に関連して、19世紀半ばにおけるアメリカ合衆国の西部への領土拡大は、北部諸州と南部諸州の対立を激化させた。両者の対立について、産業構造および貿易をめぐる立場の相違に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問3 下線部Cに関連して、次のa～cの出来事は、ドイツの統一に関する下の年表のどこに入れるのが適当か。  
年表中の空欄1～7の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

- a. イェーナ大学で、学生らの組織であるブルシェンシャフトが結成された。
- b. フランスで、ルイ＝ブランら社会主義者を含む政府が成立した。
- c. プロイセンとオーストリアが、デンマークと開戦した。

1

ウィーン会議が始まった。

2

ドイツ関税同盟が成立した。

3

フランクフルトで国民議会がプロイセン国王を皇帝に推した。

4

ビスマルクがプロイセン首相に任じられた。

5

北ドイツ連邦が成立した。

6

普仏戦争（プロイセン＝フランス戦争）が起きた。

7

問4 下線部Dに関連して、この時期にドイツ語を学んだ知識人の1人に、のちに東京大学総理<sup>そうり</sup>などを歴任し、日本の教育界に足跡を残した加藤弘之がいる。加藤弘之に関する次の文章を読んで、空欄（ア）～（オ）に入る人名を、下の1～9の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

加藤弘之は、スイス出身でドイツで法学者となったブルンチュリ<sup>ブルンチュリ</sup>の『一般国法学』の抄訳を出版している。この本でブルンチュリは、君主に絶対的な権力を認める立場と、社会契約論にもとづく（ア）の人民主権論をともに批判した。これは急進派と保守派の双方を批判する立場に立つものであった。ブルンチュリが教えを受けた学者の1人に、歴史的な見地から法学を研究したサヴィニー<sup>サヴィニー</sup>がいる。歴史への関心は、ドイツのナショナリズムの特徴の1つで、近代歴史学の基礎を築いた（イ）もまた、政治的には急進派と保守派の中間に立っていた。

また、加藤は、『人権新説』を著して天賦人権論を批判した。この本は（ウ）の生物学的な自然淘汰の理論を社会に適用しようとした当時の欧米の思潮の影響を受けている。（ウ）と同時代に、社会の進化を考察したイギリスの思想家（エ）の著作も『人権新説』のなかで言及されている。（オ）もまた、その主著『資本論』を（ウ）に献呈するなど、当時（ウ）の思想は自然科学にとどまらない影響力を持っていた。

- |         |         |           |          |         |
|---------|---------|-----------|----------|---------|
| 1. コッホ  | 2. コント  | 3. スпенサー | 4. ダーウィン | 5. フーリエ |
| 6. ホッブス | 7. マルクス | 8. ランケ    | 9. ルソー   |         |

問5 下線部Eに関連して、日本の動向に関する次の1～5の出来事を、年代の古い順に並べ替え、その番号を左から順に記入しなさい。

1. 加藤友三郎内閣がシベリア本土からの撤兵を決定した。
2. 米騒動が起き、寺内正毅内閣が総辞職した。
3. ドイツ領であった赤道以北の南洋諸島が日本の委任統治領となった。
4. 日本がドイツの膠州湾租借地を占領した。
5. ワシントン会議で海軍軍備制限条約が締結された。

Ⅱ 中国の対外関係について述べた次の文章を読んで、以下の問6～問10に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄 A〕の所定の欄に記入しなさい。

中国の歴代王朝は、様々な形で周辺地域との関係を結び、貿易を含む交流を行ってきたが、A 貿易を制限する政策を行うこともあった。また、B 王朝の統治領域は周辺地域との関係に応じて変化し、必ずしも一定していなかった。

こうした中国の王朝と周辺地域の関係は、欧米諸国の東アジア進出が本格化した19世紀半ば以降に大きな転機を迎えた。中国では、世界の潮流に対応した C 新たな文化や、D 政権の形、他国との関係のあり方が模索されることとなる。そうした模索は、20世紀後半においては、E 冷戦という国際環境に規定されるなかで継続した。そのなかで中国は、変化する国際情勢を踏まえて、より積極的に国際社会と関わるようになっていった。

問6 下線部 A に関連して、明朝は、海上貿易の統制政策を実施したが、16世紀にその政策を緩和している。明朝が統制政策を緩和した背景について、政策の内容を述べた上で、当時の中国の周辺海域における貿易の状況に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

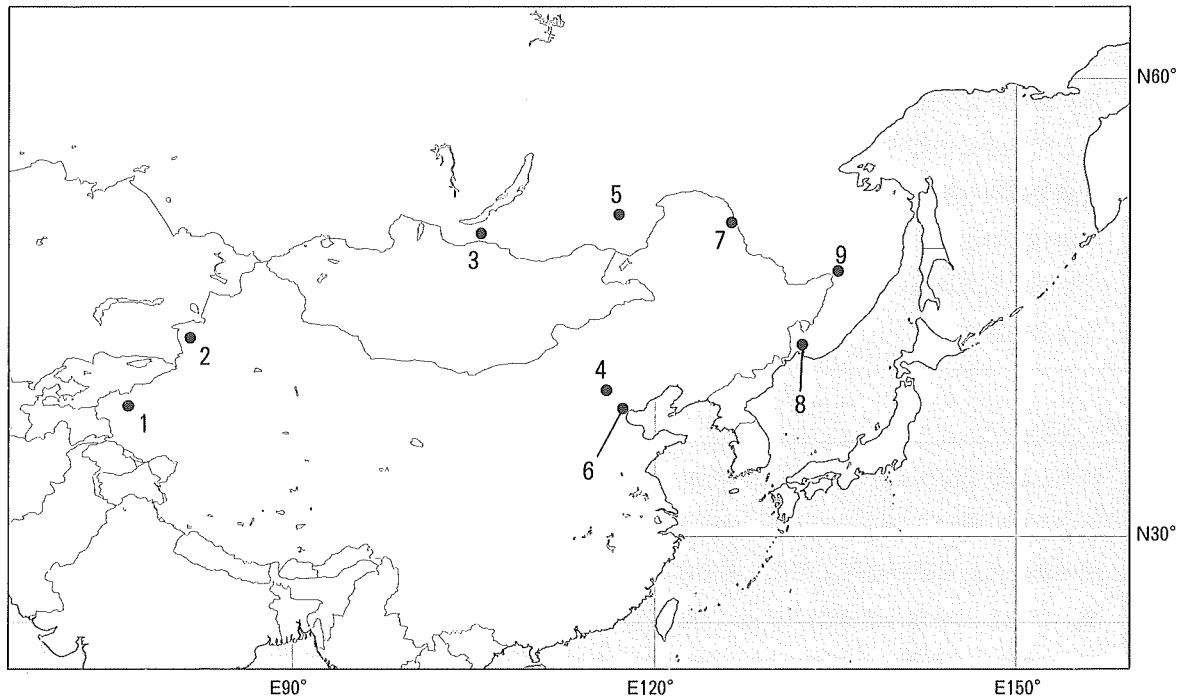
問7 下線部 B に関連して、次の文章を読んで、以下の（1）、（2）に答えなさい。

広大な領域を統治していた清朝は、同じく巨大な帝国であったロシアと隣接しており、その国境は時期によって変動した。康熙帝時代には、当時黒竜江（アムール川）方面に進出していたロシアと対峙し、（ア）条約を結んでアルグン川とスタノヴォイ山脈（外興安嶺）を国境と定めた。また、雍正帝時代には、（イ）条約を締結し、さらなる国境を画定するとともに、通商や逃亡者の引きわたし、北京への教会の設置などに関する取り決めを結んだ。

しかし19世紀半ばになると、欧州諸国の東アジア進出を背景として、ロシアの清朝に対する圧力が強まり、黒竜江以北をロシア領とする（ウ）条約が黒竜江沿岸の（ウ）において結ばれた。また、（エ）条約では、ウスリー川以東の沿海州がロシア領となった。

さらに、イスラーム教徒の反乱をきっかけとして、（a）＝ハン国の軍人であるヤークーブ＝ベクが勢力を拡大し、清朝の統治地域内に独立政権を樹立した。この政権は清朝の左宗棠らによって打ち倒されたが、ロシアはこれを機に清朝の領域内の（オ）地方を一時的に占領した。その後、（オ）条約によりその地域は清朝に返還された。また、（a）＝ハン国は、1876年にロシアに併合された。

- (1) 文章中の空欄(ア)～(オ)には地名が入る。(ア)～(オ)の地名の位置として最も適当なものを、下の地図中の1～9の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)



備考：国境線は現在のもの。

- (2) 文章中の空欄(a)に入る語を、〔解答欄B〕の所定の欄に記入しなさい。

問8 下線部Cに関連して、1910年代には、中国において新文化運動と呼ばれる思想・文化面での革新を訴える運動が起きた。次の資料a～cはその運動を代表する人物による著作の日本語訳からの抜粋である（必要に応じて表現を改めた）。それぞれの著作の著者の組み合わせとして適当なものを、下の1～6の中から選びなさい。

a

また近世の文学を見てみると、なぜ『水滸伝』、『西遊記』、『儒林外史』、『紅樓夢』を「生きた文学」と称することができるのだろうか。それらはみな生きた文字で書かれたものだからである。もし、その作者らがみな文語で書物を書いたなら、かれらの小説はこのような生命を持つことはできず、このような価値を持つことはなかったのだ。（中略）この一千年余りの文学で、およそ真に文学的な価値のあるもので、白話の性質を帯びていないものはない（中略）。だからわたしは、「死んだ文字は決して生きた文学を生むことはできない」と言うのである。

b

わたしは歴史をひもといて調べてみたが、その歴史には年代がなく、くねくねとどのページにもみな「仁義道德」という字が書いてあるのである。わたしはどのみち眠れないので、夜中まで丹念に読んでみたところ、字と字のあいだから字が見えてきた。本にはびっしりと「食人」という二字が書かれているのだ！（中略）四千年来、いつも人を食ってきたところ。今日やっとわかったのだが、わたしもそこで長いあいだすごしてきたのだ。（中略）人を食ったことのない子供なら、まだいるかもしれないではないか？子供を救え……。

c

われわれがもし、中国の法は、孔子の道であり、それがわれわれの国家を組織し、われわれの社会を支配して、それで今日の競争の世界で生存するに耐えるのであれば、ただ共和国憲法を廃すべきのみならず、（中略）あらゆる新政治、新教育は（中略）ことごとく廃止し（中略）なければならない。万一（中略）、西洋式の新国家を建設し、西洋式の新社会を組織し、現在の世界で適者として生存しようなどと（中略）考えるのであれば、根本問題は、西洋式の社会・国家の基礎、いわゆる平等・人権の新信仰をまっさきに輸入しなければならないということであり、この新社会・新国家・新信仰と相容れない孔教に対しては、徹底した覚醒、勇猛な決心を持たなければならない。

（資料出所はいずれも省略する。）

- |          |       |       |
|----------|-------|-------|
| 1. a 胡適  | b 陳独秀 | c 魯迅  |
| 2. a 胡適  | b 魯迅  | c 陳独秀 |
| 3. a 陳独秀 | b 胡適  | c 魯迅  |
| 4. a 陳独秀 | b 魯迅  | c 胡適  |
| 5. a 魯迅  | b 胡適  | c 陳独秀 |
| 6. a 魯迅  | b 陳独秀 | c 胡適  |



問9 下線部 D に関連して、次の a, b の出来事は、下の年表のどこに入れるのが適当か。年表中の空欄 1～6 の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

- a. 蒋介石を中心とする勢力が南京に国民政府を建てた。
- b. 中国国民党が党大会で「連ソ・容共・扶助工農」の方針を決定した。

1

孫文が死去した。

2

広州に国民政府が成立した。

3

国民革命軍が北伐を開始した。

4

上海クーデタが起きた。

5

瑞金に中華ソヴィエト共和国臨時政府が成立した。

6

問10 下線部 E に関連して、第二次世界大戦後の中国での内戦の結果、中国を代表すると主張する政府が北京と台北にそれぞれ存在する状況が生まれた。これにより、国際社会では、どちらを正式な中国政府として承認するかが問題となったが、国際連合は、その成立から現在にいたるまで、この問題に対してどのような立場をとってきたか。北京と台北に政府が並立することになった経緯に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

Ⅲ 経済学者ワシリー・レオンチェフに関して述べた次の文章を読んで、以下の問11～問18に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄A〕の所定の欄に記入しなさい。

1905年生まれ<sup>(※)</sup>のレオンチェフは、大学教授である父親が勤務する大学があった現在の A ロシアにて、幼少期と青年期を過ごし、15歳で大学に入学し、10代で卒業した。レオンチェフは、B ソヴィエト政権に対して、学問の自治、言論の自由を求める反政府活動に参加していたことから、拘束されることもあったが、病気を理由に国外に出ることが許され、ドイツの大学で研究を続け、20代前半で博士号を取得した。そして、ドイツのキール大学の世界経済研究所に勤務し、1931年に、アメリカの全米経済研究所（NBER）から招聘され、C アメリカに移住し、翌年にハーバード大学に移り、1946年には教授になった。

レオンチェフは、第二次世界大戦中、アメリカ統合参謀本部戦略情報局の顧問を務めるとともに、自らが発展させた産業連関分析により、戦時体制から平時の経済体制への移行が、D アメリカ経済に及ぼす影響の予測も行なった。さらに、レオンチェフは、E 国際貿易の基本理論であるヘクシャー＝オリーンの定理と矛盾する「レオンチェフの逆説」と呼ばれる現象を発見するなど、産業連関分析の発展の業績により、1973年に F ノーベル賞（ノーベル経済学賞）を受賞している。

レオンチェフは、次々と産業連関分析を現実の経済問題に適用し、冷戦構造の下でのアメリカにおける軍事支出の大きさとその影響や、G 軍縮が世界経済に与える影響に関する研究なども行っている。また、ノーベル賞受賞記念講演の基礎となった研究は、H 環境問題が世界経済に及ぼす影響に関するものである。

レオンチェフは、慶應義塾との学術的交流の一環として、1992年に、三田キャンパスにて講演を行うなど、精力的に研究活動を続けたが、1999年に93歳で死去した。

（※）レオンチェフの生誕年については、1906年という記述もある。

問11 下線部Aに関連して、レオンチェフが幼少期と青年期を過ごした都市に関する次の文章を読んで、空欄（a）～（c）に入る都市名の組み合わせとして適当なものを、下の1～6の中から選びなさい。

バルト海に面したこの都市は、スウェーデンとの戦争中にピョートル1世が建設した都市である。1712年にロシア帝国の首都となった。第一次世界大戦開戦後、（ a ）と改称され、1918年に首都はモスクワに移された。その後、名称は、（ b ）に改められたが、ソ連邦が解体した年に、（ c ）と呼ばれるようになり現在まで続いている。

- |                  |               |               |
|------------------|---------------|---------------|
| 1. a サンクト＝ペテルブルク | b ペトログラード     | c レニングラード     |
| 2. a サンクト＝ペテルブルク | b レニングラード     | c ペトログラード     |
| 3. a ペトログラード     | b サンクト＝ペテルブルク | c レニングラード     |
| 4. a ペトログラード     | b レニングラード     | c サンクト＝ペテルブルク |
| 5. a レニングラード     | b サンクト＝ペテルブルク | c ペトログラード     |
| 6. a レニングラード     | b ペトログラード     | c サンクト＝ペテルブルク |

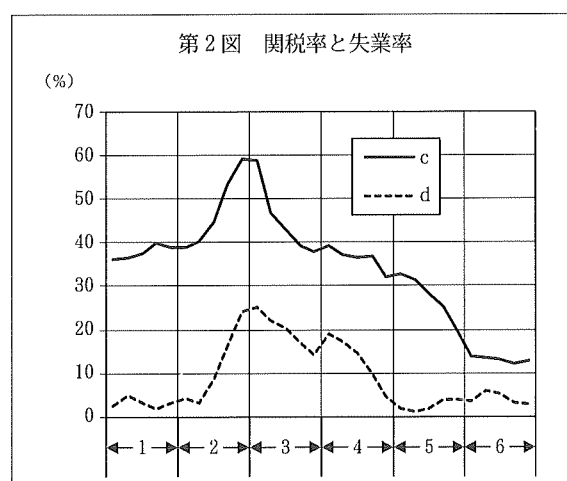
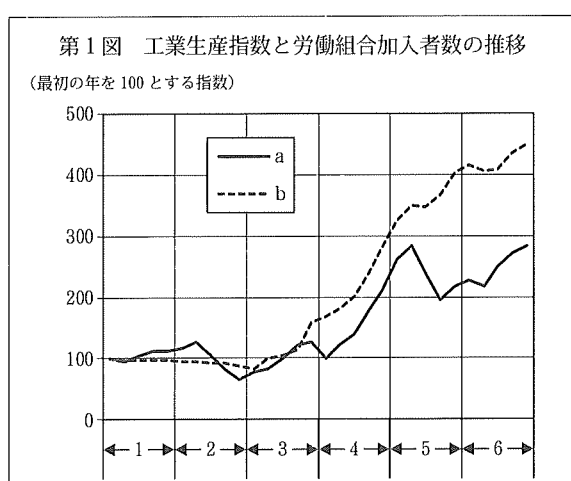
問12 下線部Bに関連して、以下の（1）、（2）に答えなさい。

（1）ソヴィエト政権が反ソヴィエト政権勢力との内戦の時期に実施した経済政策は、内戦終結とともにどのように転換されたか、転換後の政策の呼称を明示しつつ、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

- (2) ソヴィエト政権の発足によって、諸外国との関係はどのように変化したか。その発足から(1)の内戦の時期にかけてのイギリス、ドイツ、フランスとの関係に触れつつ、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問13 下線部Cに関連して、レオンチェフがアメリカへ移住した当時、アメリカへの移民は1924年の移民法に基づいて管理されていた。その移民法はアメリカへの移民の出身地域・国の構成にどのような影響を与えたか。〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問14 下線部Dに関連して、次の第1図、第2図は、20世紀のある30年間(2つの図で共通に設定)におけるアメリカの工業生産指数、労働組合加入者数、関税率、失業率の動向をグラフ化したものである。図の横軸の1～6は、5年ごとの区分(2つの図で共通に設定)である。これらの図に関する以下の(1)、(2)に答えなさい。



〔資料出所〕 United States. Bureau of the Census, *Bicentennial Edition: Historical Statistics of the United States, Colonial Times to 1970* (工業生産指数、関税率、失業率), Troy, L., 'Trade Union Membership, 1897-1962,' *The Review of Economics and Statistics*, vol.47 (労働組合加入者数) より作成。

- (1) 第1図のaおよびb、第2図のcおよびdの組み合わせとして、最も適当なものを下の1～4から選びなさい。

- |               |            |       |       |
|---------------|------------|-------|-------|
| 1. a 工業生産指数   | b 労働組合加入者数 | c 関税率 | d 失業率 |
| 2. a 工業生産指数   | b 労働組合加入者数 | c 失業率 | d 関税率 |
| 3. a 労働組合加入者数 | b 工業生産指数   | c 関税率 | d 失業率 |
| 4. a 労働組合加入者数 | b 工業生産指数   | c 失業率 | d 関税率 |

- (2) 次のア～エの出来事が起きた時期を、図の1～6からそれぞれ選びなさい。ただし、1の時期より前の場合は0を、6の時期より後ろの場合は7を記入しなさい。(重複使用不可)

- ア. ウィルソン大統領が十四カ条を発表した。  
 イ. 国際通貨基金(IMF)が発足した。  
 ウ. フーヴァー＝モラトリウムが宣言された。  
 エ. ワグナー法が制定された。

問15 下線部 E に関連して、以下の（１），（２）に答えなさい。

（１） 第二次世界大戦後、世界では関税と貿易に関する一般協定（GATT）を中心として、貿易の自由化が進展していったが、GATT は世界貿易機関（WTO）に継承された。GATT と WTO の相違点について、WTO の設立時期の世界経済の環境の変化に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

（２） レオンチェフは、国際貿易に関しては、地域的な国際貿易の進展による発展途上国の発展の重要性も指摘している。次の a ～ c の地域共同体あるいは地域協定に関する出来事は、下の年表のどこに入れるのが適当か。年表中の空欄 1 ～ 7 の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

- a. アジア太平洋経済協力会議（APEC）が発足した。
- b. 東南アジア諸国連合（ASEAN）が発足した。
- c. 北米自由貿易協定（NAFTA）が発効した。

1

第 1 回先進国首脳会議が開催された。

2

プラザ合意により、ドル高の是正がはかられることになった。

3

ヨーロッパ連合（EU）の創設などを規定するマーストリヒト条約が調印された。

4

タイの通貨バーツの急落をきっかけにアジア通貨危機が発生した。

5

アフリカ連合（AU）が発足した。

6

アメリカの投資銀行リーマン＝ブラザーズが経営破綻して、世界的な金融恐慌が起こった。

7

問16 下線部 F に関連して、ノーベル文学賞を受賞した作家の中には、現実の社会についての論説を記した者も多い。次の資料 a ～ c は、ノーベル文学賞を受賞した 3 名の作家のそれぞれの著作からの抜粋を日本語に訳したものである（必要に応じて表現を改めた）。これを読んで、以下の（１），（２）に答えなさい。

a

1938年は、（ ア ）にとって、喪の年である。（ ア ）は国際的友好を裏切り、チェコスロヴァキアを引渡し、（ イ ）を見捨てた。（中略）われわれは、名誉を救ってくれたわれわれの同胞にたいしてただただ感謝するばかりである。共和国（ イ ）に彼らの血を捧げに行った英雄的な義勇兵たちに、（ ア ）政府は（中略）、彼らの帰還にあたって、輝かしく、愛情のこもった、公の歓迎をするべきだった！

b

私のような類の（ウ）気質は、アメリカという名の、この人種的民族の宇宙において、客人を手厚くもてなすコスモポリスにおいてこそ、最も適切に保護されています。（中略）スイスへの旅行は、田舎から世界へと出て行く旅でした。（中略）スイスは中立であり、複数の言語が使われ、（ア）の影響を受けていて、（中略）実際、北方の政治的大国よりもはるかに「世界」であり、ヨーロッパを目のあたりにできる場所だったのです。

c

われわれは、重機関銃とライフルの砲火の中を（イ）の歩兵の列と共に丘陵の頂上で伏せていた。（中略）ファシスト軍はわれわれの背後の道や野原に80ミリ迫撃砲で砲撃してきた。（中略）ニューヨークから受取ったばかりの新聞には、フランコ将軍が勝利に向けた最後の攻撃を開始する前に、政府側に降伏を決断させるため、5日間の猶予を与えたことが書かれていたが、（中略）反乱軍の重要な拠点に我々が歩いて入ってきたということとは、少しばかり矛盾しているようだ。

（資料出所はいずれも省略する。）

（1）資料a～cの空欄（ア）～（ウ）に入る国名の組み合わせとして適当なものを、下の1～6の中から選びなさい。

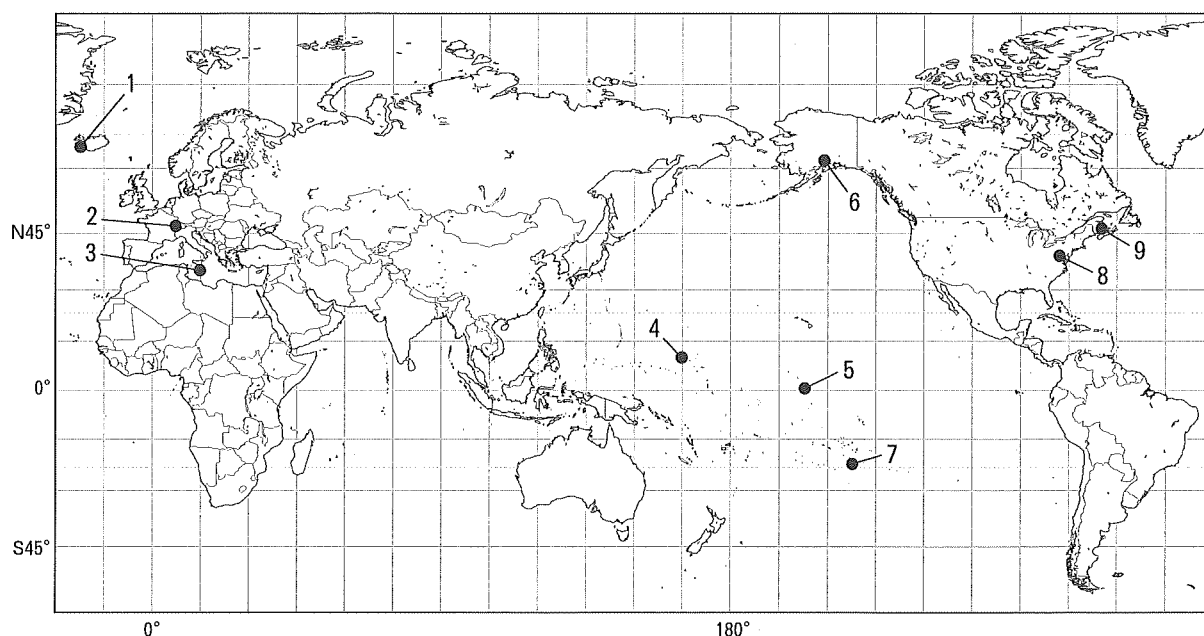
- |            |         |         |
|------------|---------|---------|
| 1. ア. スペイン | イ. ドイツ  | ウ. フランス |
| 2. ア. スペイン | イ. フランス | ウ. ドイツ  |
| 3. ア. ドイツ  | イ. スペイン | ウ. フランス |
| 4. ア. ドイツ  | イ. フランス | ウ. スペイン |
| 5. ア. フランス | イ. スペイン | ウ. ドイツ  |
| 6. ア. フランス | イ. ドイツ  | ウ. スペイン |

（2）資料a～cの著者名の組み合わせとして適当なものを、下の1～6の中から選びなさい。

- |              |           |           |
|--------------|-----------|-----------|
| 1. a トーマス＝マン | b ヘミングウェイ | c ロマン＝ロラン |
| 2. a トーマス＝マン | b ロマン＝ロラン | c ヘミングウェイ |
| 3. a ヘミングウェイ | b トーマス＝マン | c ロマン＝ロラン |
| 4. a ヘミングウェイ | b ロマン＝ロラン | c トーマス＝マン |
| 5. a ロマン＝ロラン | b トーマス＝マン | c ヘミングウェイ |
| 6. a ロマン＝ロラン | b ヘミングウェイ | c トーマス＝マン |

問17 下線部Gに関連して、レオンチェフは、アメリカのノーベル経済学賞受賞者などを中心に組織された団体である「軍縮問題を考えるエコノミストの会（ECAAR）」などの活動を通じて軍縮問題にも積極的にかかわっていた。軍縮に関する次の文章を読んで、文章中の空欄（a）～（c）の場所として最も適当なものを、下の地図中の1～9の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

1954年にマーシャル諸島の（ a ）で水爆実験被爆事件がおきると、原水爆禁止を求める運動が世界各地に広がり、翌1955年には広島で第1回原水爆禁止世界大会が開催され、1957年には日本の湯川秀樹ら東西各国の22人の科学者たちが集まって（ b ）で第1回（ b ）会議を開き、核兵器禁止を訴えた。1962年に起きたキューバ危機を契機に、核戦争勃発の危険性が認識されるようになり、核兵器の管理が進むことになった。その後も冷戦は続いたが、1989年にゴルバチョフ大統領とブッシュ大統領が（ c ）で会談し、冷戦の終結が宣言され、1991年に第1次戦略兵器削減条約（START1）が米ソ間で調印された。



備考：国境線は現在のもの。

問18 下線部 H に関連して、環境問題の解決を目指した次の a～c の出来事は、下の年表のどこに入れるのが適当か。  
年表中の空欄 1～7 の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

- a. 京都議定書が採択された。
- b. 国連人間環境会議が開催された。
- c. リオデジャネイロで「環境と開発に関する国連会議」が開催された。

1

レイチェル＝カーソンが『沈黙の春』を刊行した。

2

オゾン層の保護のためのウィーン条約が採択された。

3

気候変動枠組条約が発効した。

4

アメリカでバラク＝オバマが大統領に就任した。

5

気候変動に関する国際的枠組みであるパリ協定が採択された。

6

アメリカでドナルド＝トランプが大統領に就任した。

7